

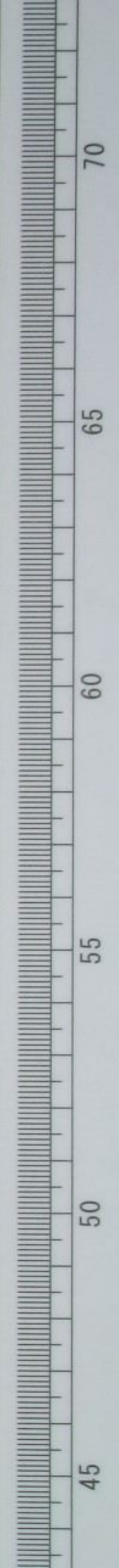


病家須知

一名病家之侶要訣

三

武  
分  
3



武部  
25  
3

岡氏  
森庭

岡氏  
森庭

病家須知卷之三

目録

- 小兒を養育する心得ヲ
- 小兒を寒暑とも赤裸うして無事は生長せし事ヲ
- 小兒の病少かんぬ秘法ヲ
- 小兒ハ常ニ風日ニあはしめて益ある事ト并ニ養ふべき事ト也
- 産の母自身の乳より兒を養ふべき事ト也
- 脊むしの兒を車に乗せて抱あつた事ト
- 乳より兒の氣質を轉るることガ
- 自身より乳を喫する事の成るぬ事ト也
- 乳母と多くふ心得ハ
- 乳の美惡を試す事ハ
- 乳を喫むる事ト也
- 乳を喫むる事ト也
- 初生の小兒よりめて乳を用ふ心得也
- 乳不足する事ト也
- 小兒の藥を服らぬ事ト也
- 母及乳母より與て

効ある心得也 ○初生兒のよだまをかき去る心得あること十六

○世のほろり薬とりふらえたる事也 ○小兒の乳を

吐く症の油断ありぬこと也 ○卒にさへなるとは腹を按て

救ふ事也十九 井上圖也 ○乳を吐及さへある事也二十 安なる薬

を用さば却て害とある事也十九 ○乳を吐及さへある事也二十 のほめ

は汗をとりて治さる事也十九 ○同母及乳母の病もくちの症

扱ふこと也 ○大便の色青はうろりかぬ症ある事也二十一

○小兒の病多くハ父母の遺毒よりある事也二十一 ○貴人

の兒ハ父母の遺毒扱ふ乳母の乳より毒を傳ふ病りの

あはれもあらばけりのためと二十二 ○小兒の頭よ發する

瘡を俗よ胎毒とりふこと二十二 ○小兒の遺毒よ由り眼を

患ふりの顙門の貼薬を用ふる事也二十三 ○小兒の病を

藥てむりとりふ心得ある事也二十三 ○痘瘡のあらえ二十五

○痘瘡の毒を傳へはためのおと同 ○痘瘡を

避ふる心得ある事也二十七 ○同をやくといはれざるのみけし

○頭中を用て大い害ある事也三十 ○痘瘡瘡病

ハ大い心得ある事也卅一 ○近來の痘疹科のりふこと世に害

ある事也卅三 ○痘瘡のひきけけし拵水術を行ふ圖說卅三

○同發する部分ハ差別ある事也卅四 の圖說同

○でもらひちるえのこと卅五 ○みづうとあらえのこと卅五

○痘毒の眼よ入をふせむ事也卅六 ○きりく鼻の

中を掃除する事也同 ○なんうとあらえのこと卅六

○痘瘡ハ根の赤きよ診やうある事也同 ○同膿色

とすけの事と同 ○痘瘡の色白きを虚寒とりふ事

誤あるとせし  
 ○おせ心得のこころ  
 ○痘瘡神あるふたの辯  
 ○水痘のふと押三  
 ○同痘瘡のふと押三  
 べたあらはし同

病家須知卷之三

病家須知卷之三

小兒を養育する意得を説

小兒小乳を與る少をよるとき過く停滞せば必病の原也  
 齒生齊て後乳を用ど飲食小く養育自然の理なり世人  
 齒生そりひく後も猶乳をのみ用るものおとそれ宜  
 らど三四歳以上小いたまもかほ乳のを專小喫めて穀  
 食せぬ小兒も數の物小も傷やま生長の後腸胃必脆弱  
 穀肉小にても繞小過せばそ小堪ざり病と成故小齒  
 生てより乳を減して先稀粥やうの物より漸小喫慣れ後  
 後穀を專小用べし小兒成育る小ハ三分の寒一分の飢を帶

一むべしと。古人といへども。乳食チシヨクも小二三分を減たるヘシが宜ヨシキ也。亦の意得コトワロエをもつ。飲食シキの乏ヒからば。生出ウマレイデて哺ハヒまるとるより。その衣衾キルモノをえみるヒキたけ薄ウスクとべし。最華麗トリクケクワレイなる衣服イフクを欲コトマむ。生エマかるもの尤モトモ宜ヨシらば。親オヤの附身故衣フルキキモノを用ヨシラふ製シラたるがよし。中人以下モツダモメンを専モツダ木綿モメンを用エキオホふ益フツキ多イし。富貴フツキの家イ小コくも。あるべきたけ。質素シツソなる衣服イフク尤モトモよし。亦コは兒コを健スツカ小成長ソダテく。後の福フクを植ヤシヒ壽ヨシを延ヒキ第一ヒキの亦コ、ろえかり。亦コと小兒ニの肌膚ハダをもとより脆モロキものゝるを。あまり温暖アタカク過スぎば。腠理ケアナの開闔シマリあしく。素ツキ小病多ヤヒオホク。小コに風寒サマサ小觸ヒレば。必カナラ冒オホきて病ワザレヒやをムツキし。襦ムツキ襦ウチの裏ウラより恒ツキ小慣ナラして。重被厚衣アツギをヒキることナレかツキけナレば。熱ナレく常ツキこナレまり。必カナラ壯健スツカなるものナリも。

一前サキ小コの、るヒキたヒキをヒキ知シラさヒキし。重被厚衣アツギさせヒキし兒コも。秋風アキカゼ立タチて漸ヤスシ涼シくヒキある頃コロより。逐シ次ジ小習ナラし。冬フユ小至イタまヒキば。薄服ウスギ小コくも必カナラ害ガイあるヒキたヒキし。昔ムカシある明君メイクンの重罪オモキトガある婦人フウジンの孕ハラムたりしと聽キたはヒキひく。月足ツキて其兒コを産ウマし。十五歳サイ小至イタまヒキまで寒暑カンシヨを赤裸ハダカ小コて育ソダテさせぬヒキし。微イサカも恙ツガなく健スツカ小生長セイチヤウせしを確タシカ小證コロシぬヒキし。後放遣ハナシとヒキし。世ヨの口實コトワザもいふヒキたヒキし。人ヒトを習ナラとヒキし。小車コト小コて。今卑賤イヤシキモノの家イの子コを育ソダテるヒキたヒキし。衣食イシヨクもヒキ乏ヒしく寒サムサを防暑フセキを避サクる准備ヨウビもヒキあヒキく。世ヨ小コいふヒキたヒキし。世ヨをヒキてヒキたヒキし。こヒキのヒキ小襦ムツキ襦ウチ裡ウラよる兒輩コトモが。かヒキつヒキく病シヤメなく健スツカなるを鑒オモヒべし。こヒキのヒキ小襦ムツキ襦ウチ裡ウラよる慣ナレしむるヒキたヒキし。肝要カンユウあり。まヒキのヒキ乳哺チシヨクうヒキちヒキをヒキ小コして。腔裏ハラウラ空スキマ隙マ

おれど。運輸兼順コナレー スミヤカ小カキス一カキスく必健カキスあり。小コにコもコおコとコ兒コ小コあコ一コ  
とキコト嚴制キコトことヨコシもヨコシ宜ヨコシらヨコシむ。平素ヘイゼイ人のカ喫カ不カどのカものカ。其ソノ程量ソノとソノど  
小過スゴさスゴむスゴバ。小兒コノチ小コノチちコノチよコノチらコノチぬコノチものコノチとコノチ。擇別シヤベツをシヤベツべきシヤベツおシヤベツとシヤベツ小シヤベツあシヤベツ  
らシヤベツ。痘疹ハクサク前イミモノのル禁忌ルといルふル類ル尤ル愚ルあるルおルとルなり。冷水ヒヤもヒヤ幼稚コノチよコノチ  
聖ノミナレ喫ノミナレ熟ノミナレたるノミナレ。決ケツ一ケツくケツ害ガイあるガイおガイとガイなり。おガイにガイ小ガイくガイもガイ慣熟ナレシテしたるナレシテ  
をウマキモノよウマキモノ一ウマキモノとウマキモノにウマキモノ。小ウマキモノ。甜美ウマキモノをウマキモノなるウマキモノべきウマキモノけウマキモノらウマキモノ與アタラべアタラらアタラむ。おヤミ疾ヤミのシヤク生シヤク  
ぜんオホおオホとオホ戒恐オホのノチみノチからノチむノチ。後ノチのオホ奢オホをオホ戒オホんオホたオホめオホあり。貴賤キヒン貧福ヒンフク  
のシヤク級シヤク。そのシヤク品シヤク小シヤクよりシヤクてシヤクのタガヒ差等タガヒかタガヒきタガヒ小タガヒちタガヒあタガヒらタガヒれタガヒとタガヒ。子ソダツをソダツ育ソダツるソダツのソダツおソダツ  
ころコトえコト小コトかコトいコトくコトちコト異コトことコトをコトあコトるコトべコト一コトとコトべコトくコト幼コトよりコト奢オホとオホ肆オホあるオホ  
をイマシ禁戒イマシてイマシ。玩具テウビ衣服キルモノもフンゲン分限フンゲンよりウチ省ウチあるウチをヨシ良ヨシことヨシ。慈愛カアイ小オホ溺オホてオホ放ワカ

肆マからマ一マむマむマさマバ。長ナガくナガ後ノチ必コト已コト。意コトのオホ欲オホおオホとオホをオホ遂トケさオホむオホハ。鬱悒ウツク一ウツク  
てナル病ナルとナル為ナルるナル。さナかナきナもナ悍戾キマ小キマくキマ。人ヒト小ヒト退ヒト棄ヒト身ヒトをヒト滅ヒト小ヒトいヒトとヒトれヒトべヒトし。  
故コト小コトおコトとコト戒イマシ誠イマシることイマシもイマシ嬰孩イハチナキのハジメ始ハジメ小ハジメあハジメ。たコトとコトへコト脆弱ヨロキマシのコト兒コトありコトとコト  
毛モウやモウ、東西オウシをオウシ辨オウシべきオウシ。齡ヨベヒ小ヨベヒいヨベヒとヨベヒらヨベヒむヨベヒ。とテナラヒやくテナラヒ學ヨミモノ字ヨミモノ讀ヨミモノ書ヨミモノのエラシ師エラシをエラシ撰エラシ。四シ  
民ヒトそれヒトのマナブ學マナブべきマナブおマナブとマナブ戒シヤク漸シヤク小シヤク教シヤク。朝夕アサユフミ身イシム小イシム閑イシムなイシムらイシム一イシムむイシム。屋ウチ  
一オホ必オホ怠オホ墮オホ小オホ習オホ慣オホ一オホむオホべオホらオホむオホ。世オホ人オホの子オホをオホ愛オホとオホるオホとオホ見オホるオホ小オホ。病オホかオホ  
きオホ小オホ灸オホりオホ故オホおオホきオホ小オホ藥オホをオホ用オホくオホ。預病オホのオホ發オホぬオホ慮オホとオホまオホとオホ。健オホあるオホ兒オホ  
小オホ灸オホ藥オホ何オホのオホ益オホあるオホべきオホ。用オホるオホとオホあオホりオホのオホ灸オホ藥オホ暗オホ小オホ害オホをオホ招オホおオホとオホ戒シヤク知シヤク  
むオホ一オホてオホ。稚兒オホをオホ一オホくオホ空オホ小オホ苦痛オホとオホ忍オホ一オホむオホるオホもオホ小オホおオホとオホどオホ。志オホおオホせオホ  
んオホよりオホちオホ今オホのオホ論オホのオホおオホとオホくオホ馴到オホ一オホ。六オホ七オホ歳オホのオホ頃オホよりオホもオホ。とオホやくオホ師オホをオホ

擇て學べきこと小簡からむ。兒の身小暇あらしめむ。放肆を  
るを戒ん小の志のば。か、是バ體必健小く病なく。慣て常とあれむ。成  
長くももの、用小もたち。世小崇重る、人ともならん小とる。小と  
親の真小子を愛とるものといふ處。子成かくのおとく教導と  
却く易と小く。病なき身小灸火の熱をうけ。苦樂を曉せらる  
れほどの惱もある處。人小賢愚の殊ありといへども。受  
得たることおろの性も善小も惡小も習やまきもの小く。幼より  
親の教諭よろしからむ。惡友小交ぬとる。端人とある處。きも。や  
おく酒色小耽懶慥小ありて。おとため終身の病と得。遂  
小ち家の衰と來身と区あり。草木の枝も嫩小撓まむ。いのやう

小もなし。榦大枝剉かりく。いの小とも爲。たし。小は成嬰孩  
小教。未成人小戒。壯健に。く忠實ある人と成。小とる。全親の心  
にある處。きとあり。脆弱多病乃兒なりとも。灸藥保護のいと  
ほ小也。堪べきほどの小と成。必勤し免。身體と運動し。漸小學  
べき。小との伎藝を教ること。小れ灸藥小も優。る効ある。ゆ  
め。愛著小溺て。怠弱小ならは。むべ。稚より小を導  
小との道あり。古人の語小。世小を愚なる小との多。人乃子  
を善育る小とを。知む。いま。小。甫。小。より。甫。て。小。よ。こ。と。與。ん  
あれ授んふといひ。く。た。小。慈を教。大なる左過ありとい。と。色  
し。是人の不注意とある小。萬事小わさりて益ある誠なり。

世の人孫子の榮を希ん小ら。貴賤とも小その用意ある儘き小  
さか。假令達官重祿の子ありとも。幼より放恣小からぬやう  
小教育る小とも。その保傳かとの心小あるべき小とぞ。幼よ  
里もの小慣く。寒暑小も堪らる。體みらば。羸弱小て。國家と治  
る小とも爲ふたく。も一木軍の將と一陳營小臨とも。いづく  
り令を下し。衆を部署とる小とのなるべ。賢徳ありとも。病あり  
くも。其の効なる於。志のらば。清平の御世なりとも。武  
家小も最大の遠慮なく。て。かものる。なり。

産母自兒を乳養ふ理とて

胎兒と母の血肉を分。乳汁も同體の血より。釀成もの小く。其

兒小賦與べき小定するものなり。故小兒小病さく。健小成長  
小とを。其母の乳を以て養小く。小と。是天然の道  
理小合はる。兒のこらば。母もま。乳養ふ。平素より  
も病少く。腹中の運化よく。兒小乳を與るうち小死ぬる。と  
の病あるも稀あり。予常小孕婦小會は。必力く。小と。説驗  
を得。と多年あり。か。假令富貴の家の婦人なりとも。そ  
兒を寵愛する志深。抱撫。他人小任とも。乳ハ自與べき小也。  
志のら。身小病あり。乳質の美。らぬ婦人。は。用  
捨あるべきことなり。兒小乳を與。と。孕小と。遅と世の人。い。と  
も。小大ある。虚言なり。其の自乳養もの小年々小産。或る隔



小児をそとつる小車。あつちをた庭まの巷小ても  
 そつたら地上小あをバーぬ。あつちをそとつるの外ち  
 あるたけ風日小あひぬたたる。生長小もつとも  
 益か。初生の児もそつたら臥蓐小くつら  
 うら手足をうごかしぬ。そつたら襦袢へるころよ  
 あらはたる。襦袢にけ身を自由小させぬ。や  
 ちひまへるやう小さるるふよ。りあつちをた  
 體のこのまろかそくかからむ病かやうらむ  
 佝僂かといふ病も。其父母の遺毒より  
 發ものごとくども。あまう小抱るへのそつて  
 そつたる児小かかぬ。あつちをた庭まの巷小ても  
 をうとふる小児のこめ小る。小車と  
 こつらへ。兒の脊中のたうたさあろへ  
 てまりの横木のあたるやう小。  
 めんをらうらるのこのへよう  
 かけらせ。前小のへらぬやう小  
 して。家の中まこつ往來と



李桐

そろくとひきくあつち  
 をむむ。  
 こ色小よりそその  
 脊槌をためてこつと  
 ちるぬ。歲月をつと

漸小治べた活用の法  
 ち色ハよくその意  
 を得くぬとこはべ



年小必孕く。母子とも小健あるもの。常小みることありあり。却く乳を與むく多子と産むもの。其の兒必脆弱して死ぬるも乃多し。おま予の素小注意歴試とありあり。まゝ或るいふ兒小乳を與る婦人姿色もやく衰と。おまよと道理小昧ものいふおと小く。もとより妄説なりと知る。

乳小よりて兒の氣質を轉むる理をこく

乳媪小病ありく兒小乳を喫むむま。その病必其兒小傳染ことるもとより論なり。その他情慾の發動思慮憂愁の微なるも其兒必感動しく自然とその氣を冒病なり。おまらあまごも。明著たるおととら辨知ざる人多き世をまゝく隠晦するへいのこと

も認おたきおと多けまごも。おま歴然道理なれど。心を注ぐ察をべきことなり。最兒必その乳養を婦人の氣質小似るものなれこと。證驗く的小知とありなり。おまらるを乳媪ともより傭賤女奴身を措小とありなく。已に愛兒をとて、顧と薄俸錢のため小身體を委他人の兒を長養もの。其性質の温厚小く。殘疾のなきる少なり。人の親たるものお、小意を注ざるを。お小慈愛なき小あらびや。

自乳養おとあたへざるものを説

産母の乳粗糲しく。他の兒小與くへ忽小吐を誘。あるひと青糞をば下利やうなるを。自己産とありの兒小與まご。多の其の害あり

るをさざるものなり。されども自乳養兒の育る秘く。いつも襁褓  
裡小死ぬるの。或る母殘疾あるの。微毒勞瘵。まこと劇癩疾頭  
癩などの類。或る乳癰などを發し。乳頭裂傷つ。小薄弱多病。月  
信不順。或る乳乏少兒小給小足む。まことさまぐの疾苦勞困あ  
ま。自其兒を育るふと能む。或る稟得く乳頭絶小兒の口小衞  
足む。はさる大小しく口小あまるの。或る舅姑父母多病老耄して。  
給侍小間あく。孝養のため小まざるの等々。おま止おとを得ざる乃  
策小しく。もとより安逸怠惰より出ざることをまむ。むやく乳媪の  
性質善良ものを擇むその兒を託せよ。よりその大要を下小  
示をみるを。

乳媪を擇むるえをこく

乳媪を擇むる。齡二十歳より三十歳左右を程とせ。且兒の  
母と同時小産せしを第一小よしとせ。五六月の差ある先可  
かり。乳媪の産の較遅のさよけまども。それをおま里小後た  
ら好し。らむ。まうのあまとも。次小舉さるの撰小合たるん  
又捨べき小あらむと了解べし。生兒の母齡弱ハ乳母もまこと若  
のよし。面體を豊満こして。渾身瘦む骨高のらむ。いの小も柔  
和小見え。顔色光澤あり。齦の色浅赤。口氣臭のらば。皮膚小  
惡臭なく。身小瘡痕なく。癬疥等の瘰も見えむ。坐小つきく前  
へ屈む。頭斜む。音聲濁なく。言語諛のらむ。氣質の凌厲のらぬ

やう小見え。體小微も缺なることあるをきもの。病もかく心も  
和平ある相状あり。さきともかく具足たる乳媪を得たきも  
の小く。たゞ大き小類似たるもの。いゝ小も壯健ありとかも  
る、ものあり。先その乳を出させく檢べし。その將きたる兒  
をも意を認くよく見る。卑賤の兒あるべ。稟賦も自然と劣  
もの多けきとも。疾の有無も。注意を知らるゝものあり。兒小疾  
ありと見ら。母も故あるをこ慮く。猶詰問べきことあり。  
乳媪の年齢より乳の老く見ゆるもの。大き必多産の婦人小  
く。先乳汁多らざるとかもふ。乳頭も色赤澤あり。圓下小垂。兒の口小銜小適。大ならも小

のらむ。乳汁いゝ小も饒多小かもへるゝをよしと。單  
乳汁も色白うち小微。淺碧色をかひ。異臭のなきをよしと。單  
小白もよし。黄あると赤あり。  
過小濃も好し。稀を良と。器小くも爪の甲小くも  
滴るるを瀉さ。過小流く餘残なく。あと小白條を曳。大となき  
をよしと。味も單小甘と良と。鹹味。まろ酸。苦味あるもの。その乳媪  
必疾ありと知べし。  
澱ある善のらむ。よき乳小も微も澱をきものあり。を透  
驗小へ。白硝子壘小納く。閑處小去。安く後よく透觀べし。

澱<sup>オリ</sup>底<sup>ソコ</sup>小<sup>コ</sup>沈<sup>シム</sup>ものあり。

乳汁<sup>チ</sup>と眼中<sup>ノウチ</sup>小<sup>コ</sup>滴<sup>タシ</sup>く驗<sup>ケン</sup>べし。質<sup>シツ</sup>鹿<sup>カ</sup>必<sup>キ</sup>滲<sup>シ</sup>透<sup>トウ</sup>く疼<sup>イタ</sup>を知<sup>チ</sup>ものあり。乳<sup>チ</sup>を檢<sup>ケン</sup>小<sup>コ</sup>空<sup>スキ</sup>腹<sup>ハラ</sup>あるを良<sup>ヨシ</sup>ことと爲<sup>ナ</sup>し。亦<sup>モト</sup>あこへ來<sup>ク</sup>まへ小<sup>コ</sup>藥<sup>ヤク</sup>あると服<sup>ク</sup>たるやいゝと問<sup>トヒ</sup>て。もし然<sup>シカ</sup>ら。三<sup>サン</sup>時<sup>ジ</sup>許<sup>カリ</sup>を過<sup>スギ</sup>く驗<sup>ケン</sup>じ。藥<sup>ヤク</sup>小<sup>コ</sup>より乳<sup>チ</sup>小<sup>コ</sup>色<sup>シキ</sup>づれ。香<sup>ニホ</sup>氣<sup>キ</sup>の發<sup>デル</sup>あるとあるものなれど。辨<sup>ワカ</sup>るたきよとのあきあかり。

件<sup>ケン</sup>の試<sup>シ</sup>験<sup>ケン</sup>を用<sup>ヨウ</sup>く。參<sup>マ</sup>互<sup>ヘ</sup>く檢<sup>ケン</sup>査<sup>サ</sup>べし。世<sup>セ</sup>小<sup>コ</sup>無<sup>ム</sup>病<sup>ビョウ</sup>ある人<sup>ヒト</sup>を稀<sup>コト</sup>かりといへど。乳<sup>チ</sup>質<sup>シツ</sup>善<sup>ヨシ</sup>のら補<sup>ホ</sup>ふ。小<sup>コ</sup>兒<sup>エ</sup>小<sup>コ</sup>意<sup>イ</sup>表<sup>ヒ</sup>疾<sup>シツ</sup>傳<sup>デン</sup>染<sup>シ</sup>く。いゝ小<sup>コ</sup>とをよむべのらざる小<sup>コ</sup>いことと。忽<sup>オロソカ</sup>畧<sup>リョク</sup>小<sup>コ</sup>まべきよと小<sup>コ</sup>わらむ。猶<sup>ナホ</sup>次<sup>ジ</sup>條<sup>ジョウ</sup>と參<sup>マ</sup>校<sup>カウ</sup>よく識<sup>シ</sup>得<sup>トク</sup>べきよとなり。

乳<sup>チ</sup>姥<sup>バ</sup>攝<sup>セツ</sup>養<sup>ヤウ</sup>の意<sup>イ</sup>得<sup>トク</sup>を説<sup>セツ</sup>

上<sup>ウ</sup>件<sup>ケン</sup>小<sup>コ</sup>陳<sup>チン</sup>とあろの撰<sup>セン</sup>小<sup>コ</sup>合<sup>カ</sup>た良<sup>ヨシ</sup>乳<sup>チ</sup>媪<sup>バウ</sup>ありと也<sup>ナリ</sup>。平<sup>ヘイ</sup>素<sup>ソ</sup>の攝<sup>セツ</sup>養<sup>ヤウ</sup>のしけと。よき乳汁<sup>チ</sup>も性<sup>セイ</sup>變<sup>ヘン</sup>くわくあり。饒<sup>ニホ</sup>あるも乏<sup>マシ</sup>なるものみと。朝<sup>アサ</sup>夕<sup>ユフ</sup>小<sup>コ</sup>意<sup>イ</sup>を注<sup>チユ</sup>べきの第<sup>ダイ</sup>一<sup>イチ</sup>あり。乳<sup>チ</sup>姥<sup>バ</sup>へ多<sup>オホク</sup>く卑<sup>ヘイ</sup>賤<sup>セン</sup>ものなと。放<sup>キマ</sup>逸<sup>イ</sup>小<sup>コ</sup>成<sup>セイ</sup>立<sup>リ</sup>く禮<sup>レイ</sup>節<sup>セツ</sup>を知<sup>チ</sup>たるも少<sup>コト</sup>あり。故<sup>ユエ</sup>小<sup>コ</sup>卒<sup>ソツ</sup>小<sup>コ</sup>儀<sup>ギ</sup>容<sup>ヨウ</sup>整<sup>セイ</sup>た家<sup>カ</sup>風<sup>フウ</sup>小<sup>コ</sup>從<sup>ジュウ</sup>めんとして。必<sup>カナラ</sup>心<sup>シン</sup>志<sup>シ</sup>舒<sup>シュ</sup>暢<sup>チャウ</sup>む。抑<sup>キヲトヂ</sup>鬱<sup>ウツ</sup>て疾<sup>ヤシ</sup>とあるとあり。そとまで小<sup>コ</sup>いさらむと也<sup>ナリ</sup>。よき乳<sup>チ</sup>質<sup>シツ</sup>頭<sup>カウ</sup>小<sup>コ</sup>變<sup>ヘン</sup>耗<sup>コウ</sup>損<sup>ソン</sup>く兒<sup>エ</sup>小<sup>コ</sup>給<sup>ケル</sup>小<sup>コ</sup>たらぬやうにあるなれば。預<sup>アサヒ</sup>小<sup>コ</sup>色<sup>シキ</sup>をその初<sup>ハジメ</sup>小<sup>コ</sup>慮<sup>リ</sup>べし。左<sup>サ</sup>の理<sup>リ</sup>とくその我<sup>キ</sup>意<sup>イ</sup>小<sup>コ</sup>任<sup>ニ</sup>放<sup>ハシ</sup>く簡<sup>カン</sup>章<sup>チャウ</sup>ならむと也<sup>ナリ</sup>。良<sup>ヨシ</sup>易<sup>イ</sup>のものも惡<sup>アク</sup>のよ小<sup>コ</sup>轉<sup>テン</sup>やとまからひなと也<sup>ナリ</sup>。兒<sup>エ</sup>もまよその氣<sup>キ</sup>小<sup>コ</sup>感<sup>カン</sup>く。後<sup>ノチ</sup>

善らぬ氣質の人とあるを。乳媪小滯行ありて遂小を宥ユルたき小いさるも。初ハジメの嚴キゼシらぬより起オコルゆゑ小。必々カナラシク諸般イッサイの所作サシをべく乳媪ウバの勤ツムべきおとち。便宜ヨロシキ小おたひおきを定サダかたタレヤクく怠墮タレヤクをらむをらむ。たゞ小兒小のカ拘カ行樂安逸ハラクイニヤシキニシ小せしむをらむ。體カラダを運動コナスおと希マシをさむ。腸胃ハラウの傳化コナレわくかりく。乳汁ナニヤウ變敗アヒクモクを招マツの患ケヒあり。故ユエ小兒を看護モリする餘力ヒコ小。事定コトサダする仕勢ツツシ洗濯センタク使シの他ホカまぐも。あるをたけり體カラダの運動コナレルやう小せしむべし。もと俸金キウキンを求モトむため小來キタをのささむ。過當ヨクイの金銀ギンと與アタてその意ココロを慰愉ヨロコビしむさむ。いさやう小も使役ツカものあり。假令タトヒ貴人キヒトの乳媪ウバありとも。多オホクの俸祿キウキンを小給タテかむ。乳養ウバヤウの暇ヒマ小

ら他の事コトを爲ナシしめ。最益モトモトあるおとあり。必カナラシクも逸樂ニヤラシクせしむをらぬおと小あらむ。こも乳媪ウバ攝養セツヤウの第一ダイとせむとあるを。はと乳母ウバの始ハジメを饒多タカシありと見えし乳汁チ忽トキ小乏トモクあるを。世の人多オホクを兒コを看護モリ小心イタを勞イタめ。等輩オウバイの交小思ツカを費ツカゆゑこの思オモへり。その車クルマかといふ小あらむ。祿キウキン昔キナフまぐち家ヘタイ支シ厨房カマドの作業ワザ小體カラダを勞ツラしたるもの。俄ニガ小飽食アウマシキ暖衣ニメカキ。兒コを看護モリするの外ソノ所作サシをき身ミとある小より。腸胃ハラウの運輸コナレわくあり。乳汁チを釀カサレ成ナの原モトを損ツラおと。上小もいふごとくあるを。たゞ心志ココロの勞怯ツカレこのこかもふむ。いたらざる意料レウケンあり。乳媪ウバの食料シキリョウを平常ヘイゼイ小變カタルおとあるを良ヨシとせ。別ベツ小伴ヨキサカナ看ウケ美味ウキモノを用

るち。か。及。つ。く。消。化。を。障。礙。小。い。た。る。べ。し。山。村。僻。陬。の。婦。人。の。常。  
小。蔬。菜。の。み。を。喫。く。美。食。小。乏。き。もの。よ。く。數。多。の。兒。を。乳。養。ふ。め。  
ま。り。あ。る。を。も。見。よ。ま。と。の。を。害。こ。れ。の。利。あ。ら。む。と。食。小。禁。忌。  
を。爲。小。も。及。む。だ。酸。味。の。過。た。る。もの。と。單。小。鹹。もの。と。酒。と。果。  
常。食。を。ち。禁。べ。き。お。と。あり。菓。の。類。も。甜。瓜。を。除。の。外。を。害。あり。と。  
ら。見。え。む。た。過。食。し。む。る。お。と。あ。る。を。味。醬。汁。多。喫。し。め。て。  
よ。し。魚。肉。も。煮。汁。あ。る。もの。尤。良。煮。く。日。を。經。た。る。肉。塩。藏。肉。蕃。椒。  
の。類。を。禁。た。る。も。よ。し。  
乳。媪。飲。食。後。直。小。乳。を。喫。し。む。る。お。と。あ。る。と。  
大。小。空。腹。あ。る。と。き。乳。を。與。べ。の。ら。む。

憂。愁。歎。歎。の。後。俄。小。乳。を。喫。し。む。る。お。と。あ。る。と。  
發。惡。お。と。あ。り。く。その。ま。小。乳。を。銜。し。む。べ。の。ら。む。  
驚。怖。お。と。あ。る。と。此。乳。を。喫。し。む。る。お。と。尤。害。あり。  
か。小。に。く。も。疾。患。あ。る。と。き。假。令。微。恙。な。り。と。も。乳。を。與。る。お。と。  
良。の。ら。む。を。傳。く。兒。も。その。害。を。う。く。る。な。ま。  
月。經。小。あ。り。た。る。と。き。小。乳。を。喫。し。め。む。し。て。車。た。ら。む。經。行。止。ま。  
で。む。あ。へ。た。る。と。も。つ。と。を。良。  
乳。媪。疾。あ。り。く。下。劑。を。服。く。下。利。止。さ。る。あ。ひ。ご。小。乳。を。喫。し。む。ま。  
ら。其。兒。も。必。下。利。を。も。よ。む。と。  
乳。媪。の。夫。と。を。り。く。會。合。さ。る。と。と。嚴。制。べ。し。慾。念。を。發。お。と。も。

良のらむ。故小の秘より男女の區別を正すべきことあり。  
乳盪平素酒を嗜く喫む。その兒も成長して必酒を飲む。且乳  
質渾濁かき。暗小兒の病の原なる故。尤おまを制すべし。  
喜眠乳焼らや、もまを食む兒を害するおとあり。稟賦寢る覺  
たき婦人の乳下小兒を壓殺たるを。數人見聞したり。恐慎べ  
記ことあり。

性淫亂ふりと見バ疾小放遣す。尤兒小害あるものあり。  
多言ものと。輕脱あると。乖巧と。踈放あると。偷安ものと。および  
善竊ある乳母を速小放逐すべし。  
其佗善らぬ癖好ある。飭言遁辭をし。虚妄をのまゆるもの

のたぐひ。みか兒をくその氣質を受む。  
殘疾あるおと後小發露かき。一日も遲疑をべきおあらば。その  
乳を喫まき。必定兒小傳染く生涯の害をかき。必々愆滞小  
まべきおと小あらむ。息肩て後も猶こまらのおとに細意を注  
も。かゝるおとあらば速放逐す。後兒の抵當をし。後の害を避  
べおととなり。  
右件も。多年試く。的實小知とあるあり。名利小のみ走て事理小  
精らぬ鑿生小。前件のおとを問たりとも。をく踈妄ある答を  
聽む。疑惑おとも起すべし。をくあらんか。益あきこと小あり  
もせん。よく思べ記ことにおと。



初生の小兒小乳を用る意得をこく

小兒産出く後母の乳の出る時を始て乳を嚙むる期と一。齒生具とき成。飲食を與る期と意得べし。おらあまごも。母産前小疾ある。まごら生質怯弱ある。多産の後小く乳の出る。おあまりに遅る。乳汁きめく乏少もの。まごの例あらむ。とまら時宜小從べし。ある産たけら母の乳の出をまちたる。よし。小兒啼おとあまごも。必虚中ある。お急と思ことなる。乳汁をその兒小天より賜る。おあらの俸禄ある。母の乳の出さる前小餓を知らとら決し。かたもの。あり。ちるく。狗猫の子を育る。と見てもその道理を知べし。狗猫も自然と子と愛

とる情をあまごも。己が乳の出る期を知ら。子小嚙むる。おあたへむ。人々却く黠才ありて。兒の啼を聽てら乳を求る。ならん。母の乳の出るをまご。天地自然の道理小背て。兒とて終身の患を抱しむる。狗猫小も劣たる。おとあり。生母の初小出る乳汁小。自然小兒の胎尿を除去の効を具へ。樂小も優たるものなる。小。其色味の常小異なる。を見て。性あし。毒あるもの。ありといひ。必粗去べき。おと。意得る俗習へ。うへとくも嘆べ。おとあり。か。乳媪をし。養育せし。めんとおもふ。儲ある。高貴の人あり。ごも。造化の妙理を精察べ。まづ初出。おの乳を。おほさら。おと。ある。産たけら。自身の乳小く。養育

て。看護をの里を他人小委たるるよよろし。初の乳汁の効ある  
のミからむ。生母の乳小く養へ。小兒も母も益ある大と上小説  
のバと一か、る道理を辨知く。予の教小從ひ。その心を推て一  
切の事自然小背大とならんも。こと天命を畏るもの小、其  
兒の後榮をも期すべきあり。貴も賤もよくく顧慮あれるこ  
こと小あらむや。

乳不足一たるときの心得を説

上小いぬる大とくおとむ。假令兒の飢るるときありとも。他人  
の疾あるもの小乞く。乳を嘔しむる大とくを危のらば。些少を  
里とも害を被大とく知危し。志のちあとも著死熱ある病な

この外も。潜く見おさく蒼卒小辨別がたき大とあり。その時  
小らまづ乳を乞うけんとおもふ人の産たる兒を。意を注ぐ者  
べし。兒小病おく。顔色光澤ありく。健小成長おど。その乳小ハま  
づ毒おくと預察べし。さる乞うく危死のさもるく苦たらむ。木  
麥一二勺むありよく洗く後。水をよき程小入く文火小て煮熟  
し。滓を瀝去。その汁を再火小上。冰糖末を釵子の耳のき小一を  
の里入く。味乳小似たるを法とをべし。そをより陶器小瀉喫せ  
んとおもふふれど。残分く重湯小温く。おを竹筒小乳頭状を製  
て兒の口に銜るべし。やう小志たる小盛く嘔しむるあり。その  
頭々紅結の類をもちひ。綿あるひの撒布糸をまるめ。乳頭より

や、小のらんとおもふほと小く暴る。薬舗小鬻とありの  
乾黄菊花を用るゑと尤良まこと常のやう小製たる乳頭を蓋  
の邊へのけ指小くおさへ。徐々と蓋を傾く吸むるもよし。も  
しおとら小く喫の杯とるこ死小へ。比小く抄入べし。蛤殼と  
を用るもまたあしおらむ。世間乳の粉といひく白屑と水小  
煮て用るものあり。是糯米粉小く製たるもの小く。脆兒と小  
る停滞とあり。おの麥汁ののさる。日々小煮く用むる炎熱の  
頃といへとも腐敗患もかく。且化易くのの乳の粉小くとる  
の小優に産く四五箇月を過たる兒と。色のと小くも養育せ  
らるる也。異邦小く牛乳を用ると聽り。牛乳新鮮もの日々得ら

るべくも。おとほと惡といふ小のあらねど。此方の人小如何あ  
らん。醇厚泥滞とあれた小くもあらど。と小都下小くの牝牛  
を畜とあるも稀とさる。此車へ予ものまど試む。たあの麥汁  
の製易用やとた小く如とどおもとる。

小兒の薬を母及乳媪小與て効ある意得を説

小兒病あるとき。いのやう小くも薬を服得さるもの小く。其  
薬を兒小與るよと四五倍の分量小く。母もくくバ乳媪小服  
しむ也。必兒小効あるものあり。最瀉下劑かと用べ死病小く。  
母乳母その薬を服ささる。小兒もまた母乳媪の下利おろわひ  
小必大便澆ものあり。小兒の薬を服ぬるを強小服せんとし

ても。咽と下ざるのそあらむ。嘔吐あどを發おとあり。かゝるこ  
きる乳を嘔しむるもの小與。必効ありと意得べきおとあり。  
かく著し道理を知。乳媪もしく母の性質。飲食。薬。および病  
の忽小あらぬおとをも辨ふべきことなり。まゝ怒。小兒の啼  
拒もの小。強て薬を服しむる。大の酌用あるおと小。最乳を  
の里小く育あろる。病小より。煎劑丸散の苦澁味のものを却て  
吐を誘。とよよりしく大患とあるおとあむ。是又心得あけ  
ハあらぬことなり。

初生兒の粘涎黒屎を速小除去すべき意得を説

小兒産出。粘稠たる涎を吐出し。胎内小あるおひご腸中小蓄

たる黒屎を下去ものおとそその常あり。おの涎を吐盡さむ。後  
撮口驚口瘡あどいふ危急の症を發し。或る眼疾口病等ある  
也。或る馬脾風とく喘哮劇息を内へ吸。と小會厭つまむ。甚  
苦症あどをも患おとあり。吐乳もこの涎を吐ぬ小兒小多ある  
ものあり。胎尿下ぬもの。其後腹痛搐搦を發し。驚癇を患る。  
左あきと痒疾。或ハ蚊蟲あとの患あり。吐乳も去易もの也。其他  
涎尿より發病多けむ。必忽とべらむ。涎尿を速小吐下せし  
て急乳を銜し。後ハ。おの物胃管より腸裡へ粘着。いゝあ  
る峻劇吐下劑を用るこも出るおとあり。鴈胡菜和名まぐ里と  
いふ草。粘稠たるものを除去の効あり。初生の小兒小用る

あとも。神代よりの遺方小やあるらん。我邦小のを用慣く異域  
小またえく知ざるこあるあり。あるを近頃華人の理小味  
説小從て。耳連湯まら欬冬花。或る耳連大黃等。又ら蜜藥あど  
いふものを用く。初生の兒小與る藥をあ小ゆゑ小まくだと呼  
ると疑ものあれたい小どや。必々餘藥を用と大の鵝胡菜小  
て車足ぬべし。あは多年予の試て知とあるあり。たゞ一味をも  
用。或る鵝胡菜湯。まら鵝胡菜。大黃鬱金紅藍花。各小四味。何も  
水煎トく用べし。産母の乳の出さる前頻小服しめてよし。吐下  
少小ら紫圓を用るあともあはどる。槩く服しむべきものと思  
ら失當あり。鵝胡菜を砂を篩去たるまで小くよし。藥舗小く水

小漬く判たるる効あり。濕あるま、を自製て用べし。まら前小  
ものいひおとく。産婦の初小出る乳汁を。兒の涎尿を瀉去べし  
効を具たるものあはど。あはその色味あしどく粗去るきもの  
小あらど。故に能此理を知く初出の乳を用るもの。鵝胡菜を  
與さるもはと可小似たはと。微毒此土小傳致くよ。里人の體  
小浸濡父母の遺毒もまら熾あはど。互用相扶て益あるあとも  
まら多涎尿を去べし。乳汁の自然と生むるあど。天地造化の妙  
用を此ト車小くも察しあは。異域小知ざる鵝胡菜を此方小の  
を用慣たる小就て。邦人の稟賦の異あとあるも。まら明易あど  
あらどや。

小兒吐乳を尤恐べし證ある處と試説

小兒故なくく乳を吐く處あり。乳を過喫たるを考て。も  
あるらば。速小停て一二時半日許も與る處となく。飢來て後喫  
しむべし。ある時。胃中小停滯する乳汁自然小下降て再吐  
出ある。かくくも猶吐止ことなく與る處と小吐もの。是  
一時の停滯小あらで必病の徵ありと注意べし。いふある  
故小乳を吐く。顔門及顔色呼吸。二便の通利まよく互驗て見  
るべし。聊も平素に異なる處とあらば。登時小高手の醫師小認  
て速治術を施べし。乳を吐やいふや痲を發し卒小死たる兒を  
數多見たり。緩慢あるも頻吐乳ときら。間なく衝逆と思て忽

棄を登らば吐乳治さるあひさる乳哺常の半を減てよ。醫  
の高手なるものあき。寒郷あるの鑿工小乏きとありふく。醫  
小藥を用んよ。まづ乳を去はらく與どく。其動靜を鑿  
べし。も一卒小衝逆あるらば。鳩尾と左肋端乳直下小く腹部  
の不容といふ處を指頭小くあると按臍へ向く抑降やう小を  
べし。ある鳩尾と不容とを按指をもるとも小撓かたやう小を  
るをよしとむ。又掌を伸たるま、小く小指のこのの掌側骨  
を鳩尾小抵當て下へむ。ひきくふやう小抑降もまたよし。指  
下小動悸ありと築々と跳ぶおとくおぼゆるもの。まよく抑  
て緩べらむ。尤仰しむべらむ。前へ屈もあし。常のやう小膝

へ抱イタ。高枕タカマ小卧コイ。むるムのよヨ。一時餘トキアトも手テを放ナさシどシ按オスくク慢マンざザ  
まマ。衝逆ナレミおほくオホク止トべベ。急イシヤ小鑿コイシヤを迎ムカフるルおオもモあアらラどド。藥ヤクの用ヨウ  
べきベキものモノもモあアくクどド。新汲水クミタテノミヅを小茶盞チヤワン小半分コハンブンもモ飲クめメ。顔カハへ  
もモ飲クるルくク魚イサ。苦味ニカミの藥ヤク。熊膽クマノクミの類ルを吐クあアるルものモノ小コハ決ケツくク服ク  
しシむムべベのノらラどド。却カウてテ宜ヨシくクらラぬヌおオとトありアリ。そのソノ佗ホカ蜜ミツ小コくク煉チたタるル藥ヤク  
おオどド尤モトモト禁キンべベ。治術レウヂツ小粗コソきキ鑿イシヤ工コウの劑クサをヲ用ヨウてテ害ガイをヲ爲ナスことコトありアリ。ま  
まマくク俗傳シヨウデンのノ奇方キハウ妙藥ミョウヤクといイふフのノ類ル。妄マヤカ小投コトウべベるルものモノ小コあアらラどド。周  
章テウシヤウ顛沛テンペイの間ノ小死コシをヲ促ウツめメとトあるルおオまマどド。よくヨク其用ソノヨウ意イあるルべベたタと  
あアらラどド。吐チ乳ハキダ及カ癩瘰サシコをヲ發ハツしたタるル兒コをヲ發汗ハツシツくク即効ジュクキとト得ウることコト

あり。そソまマるル周身シュウシン小微冷コヒヤをヲおオほホえエ。皮膚粟起ヒバニナリタルをヲ標的マクとトしてシテ行ユクべベ  
し。其時ソノトキ小壯コチヤウ歳無病サイムビヤクの婦人メノヒト。温飲オンキン熱食ネツシキをヲ不フとトよくヨクさせセ病兒ビヤク  
を懷スエ小抱コエてテ一時許トキバカリも温ヌグむムべベ。纖悉センシツおオとト俗家シヨカの會得エトクしシおオた  
きことコトもモあアらラどド。おオの編ヒ小舉コキつツくクさサとト。まマしてシテ灌水クワンスイ及カ温浴法オンヨクハフ  
を用ヨウてテ驚癩キヤウラを治チとトるルおオとトきキ小いコイさサりリくクハ尋常ヨノツホの守株刻舟シユヅカクフネの  
鑿師イシヤを首肯シヨウケンせセざるル輩トモガタもモあアらラどド。もモとトよりヨリ此編コノヒ小いコイふフべベたタらラ  
とト小もコモあアらラどドとト措セぬヌ。おオの病ビヤク。その初母ハジメの病ビヤクあるル乳ニを喫クめメ  
たるルよヨとト得ユるル。母酒メサケを喫過クシしたタるル後ノチ小發コハツおオとトもモあアらラどド。おオれレま  
さサ意イを注ツクくク自己ジギの身ミを顧カウべベ。とトりリとトけケくク乳媪ニおオとトもモ病ビヤクありアリ  
てもモ隱秘インヒてテ告ぬツケおオとトあアらラどド。家人カネイもモ不屬意コノロフカスことコト多オホシまマとト世間セケンの

この一法もとの掌側骨の  
左の乳の直下の肋の下へ  
のけく下へ按ことをよ  
くこころえくふ



この鳩尾と乳の直下の不容といふ  
ところへあたるとびさたを下へむけく按  
こころえくふ考あてせく

施苞一

陋習ロウシヨク小て啼ナクせはる兒小乳を衞ウりめて。その啼を停トんとするも  
のあり。啼泣ナクときにも腹氣逆ハラノキサカき。その時トキ用るとあるの乳もや、  
もきとバ停滯ツカヘて消化コナレした患あり。故小はあてさあれたと  
也。まゝ乳を與ユて後兒を揺動ユリウゴカスこと大小宜ヨシらむ。あてらむと吐ト  
乳の因ニツなるあり。その吐乳證ナフハクシヨクの容易イヨクからぬとを整俗イシヤシロク  
とも小了解サトせしむ。臍ハツを嚙カムの悔ノヒあるべし。こを其幾微ソノシズメ  
小防オホサしむ。必カナラ々忽棄ニルカセ小をべらむ。又青色アライロの大便ベンをさるありとあ  
り。あは腹中ハラノウチ大小ありきこころあるぞと思オモひ。速ハヤその用意テアテある  
べし。母乳オノチを喫クムたる故ユといふる至愚アタリニオロカあるあり。その青大便アヲキダイベン  
を通ツクとる兒コを忽棄ユダシるものなり。あてさどもその母乳母



小病あはら。兒の本便青色あることあり。とほも母乳焼の病を速施治をせよ。兒ハ自然小治をせよ。數日を歴するもの。兒もまご故ありとほいひのさし。よく思へ。

小兒の病を遺毒小因と多き意得を説

小兒の病十小八九を父母の遺毒より發もの多く。偶小乳媪の病を傳るもあり。今時小兒の己婉より多病あるも。多々大の遺毒小く。その變を爲小いとまごへ。後必痺疾驚癇種々の病とあるものなり。大の遺毒あるもの。假令幼稚の中小させる病なくとも。成長の後外より誘導ものあはら。内より必動應にて大患とある也。故小遺毒ありと見ら。幼稚の裏より預治を施

て遲滯小をべらら。貴人の兒の病小も大の遺毒小因もの多し。然さるも。乳媪などより毒を傳る病とあるの類。必有べきものとあるを。擊士もとほらのあとし。注意ものなく。とえ其議小及さる。治法もとほく差誤て猶悟ものなく。まご今世の擊俗とも小初生の涎尿を胎毒と意得するものあり。も一毒ある兒からべ。大をまご胎毒といふも可やうをせよ。胎毒ハ自胎毒。涎尿も自涎尿小く。相混むべき小あら。涎尿を多吐下つくしたるのみ小く。の遺毒の血肉の中小潜藏て。時を待て發する者の根を抜小たら。故小を治する小。年を積月を累漸を以せよ。別小法方の自具ありと雖。能其肯察を

得る者小あらざるより。所謂薬せどく中薬を得といふ  
諺を信小如く。安小治一得べき小あらねども也。又小兒の頭小發  
瘡を俗小胎毒といふら其名あはれり。あはれ瘡を兒の元氣自旺  
小あるに従く。血中の毒を體外へ排達べし便路を得るもの  
あり。あはれ小く周身の毒を驅つくとべきと小あらねども。早  
是を胎毒かりと知ららば。速小愈あはれ欲あはれなく。少も多く  
膿を醸て。毒を去の策を為べし。瀉藥あはれ大小禁浴とき小も眼  
驗あはれの外も。瘡あるとあはれ強灌べらる。安小貼藥をへら  
ど。まはれ其ま、小かくときえ。外邊乾燥く固あり。裏小膿を醸と  
いへども。洩出べし道あはれくく。毒氣再内攻をるあはれあり。故小

外より呼膿膏を貼過小誘導べし血中小潜藏て見ざる以前小  
らさせるあはれとあはれも既小發出るものを誤く内攻せしむは  
バ。忽變トく種々の病とある。小兒の驚癇疳疾あはれび眼耳諸件  
の疾々。此頭瘡を速小愈するより發もの多し。こは意を潜て顧  
とバ自知る、あはれとなり。こ、小末衷の藥小乏もの、ため小一  
方の用やときものを示べし。其方々牛房の實の生新ものを細  
末小く皮を篩去。さて其末を胡麻油小くよきかざ小和調頭  
瘡へ心さもの摩貼べし。藥舗小跋日栗膏といふものあり。そは  
小和て貼ら尤よし。頭瘡愈て後眼病油耳あはれ患もの。あはれの膏  
を頭へ貼て其毒を導べし。顛門へ貼く効尤速あり。そのとき小

る貼べきとありを湯ユ小くよく洗ヒて垢アカと去トリて後施ノチシべし。油アブラを厭イヤムもの。飯糊メシロ小く調チヨウもまコ可コシ。みミ小く効カクありもの。小く發ハツ疱バツ膏コウを用ヨウべし。まマ其裏ソノウラ小膿ウミを醸モテども。外邊トウ乾カハ涸キ痂フタ脱トぬるもの。膠カウ粘ネリを紙シ小攤ノベて貼ハリ。去クばらくかきて放ヒツ去タテ。後跋ノチ日ヒ栗リ膏コウの類レを貼ケンもよヨ。毒ドクを誘ユウ小必カニ効カクあり藥劑クヌリ々數多アマタありども。その辨ワカもかくニ。妄用マダシても害ガイあらん。あアと代オシ恐ソシて記ヒトど。雞卵ニ。松魚マツイサ。鰻魚ウナギ。牛旁根ウシバネ。あアどを餌エサ小コさせよシ。

小兒の病を槩オモて蟲ムシといふ誤アヤマを説

小兒の病コエノヤマトを俗ソコ小むコむムといふる。むムを同語ドウゴ小くもモと初生ウレコのち急シヤクほホと平王ヘンシヤウを變ヘン蒸シヤウといふ類ルイ小同コトウ。微熱カネツあり證シヤウを稱トク来キヤク古コ

言コトあるべし。もモ志シあらん。小く蒸ムシの字ジの義ギ小く。蟲ムシの字ジの義ギ小く。あアらざるものを。蚊コノシヤウ蟲ムシといふ蟲ムシ小兒コエ小コとさら多生オホクシヤウトトく。害ガイを爲ナスこともや。多オホけとバ小コや。槩オモて小兒の病コエノヤマトをむムといひて蟲ムシの義ギとのコかもふフ。俗家ソコウカ小くあアとさサることあるども。擊キ士シも志シの意得トモざる輩トモガまマ、あり。去クばらく俗ソコ小從シヨウふとならば。いイの小稱コトナんも害ガイあり。自オノ己レもその病ヤマト因インまマを志シの謬認オモヒカたるもの多オホクあり。その甚タガヒさよヨいとてくク。小兒の萬病マンビヤク蟲ムシより起オシるといふ説セツを爲ナスものあり。是コレ名小由ヨリ實ジツ小感カン倒見オチミあり。その尤憎オモヒニクべきもの。傷寒シヤウカン。瘧疾マツヤク。痢病リビヤク。泄瀉シヤク等ナドはハ小も蟲ムシといふ名ナを冒オモヒりて。其治法シヤクヂヤウを誤アヤマるもの多オホク見えミとて。俗家ソコウカもこの心ココロを得エざると。あアとさサ

ため小愛兒を害コロスいさるべし。かくらひへどクワイチ魃蟲ヒシの變ヒシより擗ヒシ驚癩ツキキヤウフク顛癩テンカン等を發ハツし。或アルヒち痺疾カンをど小もなりさるを。其ソノ魃蟲クワイチを下カクて効ワルを得オホハ常オホ小多オホさバ。蟲ムシを名ナべたもの絶タビて無ナシといふ小ちあらむ。必カナラ一ヒト偏ヒトカタ小聽キ疑ウタガヒ惑ヒヤウあるべらど。其ソノ纖悉センセツあると俗ソコ家の會得エトクをべきことあら祢ネバ畧リョクしぬ。まま小兒コノコ小傷寒コノコノケシヤン時疫トキエキをいふものあり。此コノ病無ヤミといふ道理ダリやあるべき。か、る偏見アヤマリより。傷寒ケシヤン痢病リビヤウをど劇急ハゲレキニウ小快藥コクサイヤクをど與アユべさ機トキ小も投ナゲむ。或アルヒち蟲ムシをいひ痺カンを呼ヨビ加カ之ノ痢病リビヤウ小痺痢カンリといふ濫名ランナメまでを稱マカケる。遂ツギ小ち治チを誤アヤあり。よくく意得イデべきあるとともあり。

痘瘡ハムサウのふゝえをさく

痘瘡ハムサウハ我邦ワカクニの往昔ナキ無ナシところの病ヤミあり。其ソノ起原キゲンを檢ケン小。人皇ニギハヤヒ四十五代ヒコイム聖武セム天皇テウの御宇ミコトノサト新羅シンラより初ハジメてある毒ドクを傳ツタ染シメて。天下テンカ小蔓延マンエンて老少ラウシウ男女ナンニョことごとく病ヤミさりといふ。まま延曆エンリヤクあり。其ソノ記載キザイを見るミ小。年トシ三十サンジウ以上イジョウのものあるとごとく病ヤミ小卧シ。その劇ハゲものち死シをとある状カタチ今イマ麻疹マシの流行ハヤルの期キ相距アハヒこと數十年スウジウネン小及おより。いまだ病ヤミさるもの必カナラ免マシむ。流行リウコウの期キ相距アハヒこと數十年スウジウネン小及おより。中夏チュウカ小て。東晋トウシンの時代ジダイ小南陽ナンヤウといふとある小虜コロを征伐セイバツあり。小軍卒コクンソク始ハジメる。其ソノ毒ドクを染シメたるを其初ソノハジメとして。闔國カンククの患ウレヒとあり。さる故ユエ小。當時トキトキこれを虜瘡ロコサウと稱ヨビ。これ惡毒アクドクの氣キありと見え。或アルヒ

此瘡西域より東して海内小流ともあはれ。中夏我邦とも小  
振古たえてあき病あり。を異域より其毒を傳たるあと燎然  
かり。今の世小いよりてち。其一生小必一患べ。死病とのみかも  
ひて。傳染の毒あるあとを解ぶ。其兒の此患小懼を賀こと世間  
の通弊とありたるを止むとを得ざる小出よりといへども。そ  
まゝと慘怛とあらむや。如此天下一同必患べき病あらも。  
邊鄙小も五七年或ち十餘年を経く流行する地境あり。江戸小  
ち歳々絶ざるあつとくあはれども。近き高位貴族のたびくの流  
行小免て。或ち年長まぢも病ざるものあるを見せむ。あはれ全氣  
運小もよらむ。胎毒小もあらむ。斷然一種の毒氣小く。傳ば患

染ざれど病ざるの道理まゝ明白あらむや。まて小八丈嶋五嶋  
あど小も近來までも疱瘡を患ふとあらむ。夫人の知とあ  
らむ。あつとく避け免べき病あらむ。其事小至りて。實  
小爲得た。かくのあつとく毒のかくのあつとく繁衍て。あれの  
ため小死する人の衆多も。まより自然の道理ありて然と  
ころいひあらむ。まゝと嘆べきの至あり。あつとくを支那の醫人  
の胎毒の説を唱たるに雷同。或ち蟬の蛻小たごへ。まゝと構  
精中の淫液ありといひ。或ち氣運時令小因の病ありあど。無根  
の邪説をいひふら。遂小其毒の所由を知るの無。故小古今  
治法聚訟誤多。宜あり。是れとんと天刑病小も類似する瘡疾

小して。生民の艱厄。國家の災害の上あき小。絶く覺者なく。た  
名利小走貪濁の鑿人等。その時行をまつと。慈子の遠征よ  
里歸を待たずおとくなるも。其心いひ小ぞや。かく痘瘡の毒の人  
より人小傳く。火の燃かおとく劇甚ことを知るの後ろ。麻疹の  
西より東小流來。天下一同患つくせを。突然と一人の患ものあ  
く。再數十年を経くま。流行をるも。おと異邦海船より毒を輸  
とあるあること。明小察し知べし。痘疹ハ今小おいくる此國固  
有もの、やうになして絶あをけき。いひ小も其源を塞毒  
氣を驅つくどに策あけき。麻疹も今小もあれ外國との通  
船を禁て。其由り來とあるを杜絶あべ。必其毒を轉輸あとも決

し。有とあるるべし。痘疹を避んこと。僻邑山村小於て易  
あこなとを都會の地小在く。大小爲たきあこく思べし。  
あをわれとも。予恒小意を留く。他の危険病患あるの。又も病  
愈て後虚羸たる兒あどのいま。痘せさるもの小會バ。避らる  
べし。理を必其家小提醒。あをため小當時の痘瘡を免し。めた  
るもの多。世間小子を多産さる者。いつも二歳もいくる三歳小  
至る必痘患小罹て死にゆる類あり。あを其兒の性質小然べ  
し。理あること小く。設其年期を過く後小痘を患とさる多。命  
を隕不とのあこをたものま、あをば。あをら尤其年期を避  
し。めよ。就中毒の尤猛烈小く。病もの十の七八も必死を

る年あり。あゝるに此の流行もいふにも避く患ざるやう小を  
危れおとなり。この五六年前の流行も。特小危険症の多  
し故。勉て人小おのこと代授て。予が教をよく守しぬ。避得  
るものも多のまき。遂小患へきも。かゝるとき小をあるべき  
たけ傳染さるやう小をべきおとなり。はと流行の盛小からぬ  
最初と。近隣おとく患て。痘瘡の巷説もや、歌たる落後小係  
ものも多る輕。この事も意得く益あることあり。志のあはせど  
もいふに意を注ても免得む。お色の為小死するもまゝ天命也。  
其毒を轉染ハ。もこより幽微小く測べのらさるのおおとくと  
いへとも多ハ痘家の器物衣服小着て輸。まゝ痘兒の氣小觸る

小よまゝ傳染隣もこを風の往來小瀉まゝも醫人の痘兒を  
診て。その臭氣暨の體小著く未銷さる小。そのまゝ、來て兒を診  
より違あり。痘家へ過く遂小訊ものよりも染。或る痘家へ往來  
する幼童猫兒おとよりつたふるもあるべし。志のあはせどおの  
毒の猛烈走竄おとる火藥の迸おと死もの小く。來も去も  
駛疾おとる。いさゝの毒氣小觸たるも。その散むるおとをまゝ  
時を過さむ。故小程を経さるる傳染の恐あるおと小あら稀と。  
細小心を致暨士も稀あるものおと。痘毒近傍小流行と知む。  
暨の由く來とあるを問く。も一痘兒を診てかどを経ざらん小  
り。この兒小病おとを診を乞おとる用捨をべし。况家人も痘

家へ省たるまゝ、小く衣服をも更む兒の側へよるべらむ。兒  
を抱く通衢を往來せむらむ。瘡家より齋來ものもいさゝの  
も兒小示しむるらむ。瘡兒を葬る墳墓ある地へ兒を携て  
行べらむ。暑月尤薰蒸て感冒やせし。まゝ瘡兒の故衣服を  
の毒染着て。年月を経ても銷せ。未瘡兒こを着て傳染たるも  
のを予正小見せむ。市小購たる故衣を晏小兒小着しむべら  
らむ。まゝ瘡の瘡兒小刺たる鍼よりも傳染おとあれむ。あきら  
まぐも心を回らむ。かく百計しむるは死懼おと毒蛇のごとく  
あるも。なほ冥々中毒を轉輸ものあきらむ。實小こは死避せむら  
む。瘡瘡の流行さる地へ兒を携て去むらく避小むるむ。かく

といへども。幽冥不測の傳る毒あきらむ。今の世小ありくを貴人  
もまゝ免もの希あるを。況屋を比戸を接て。往復絶さる庶民の  
家小かいをや。一次避得たりとも。遂小免べき小あらむ。幼  
弱小く病さむ。年長て必患。年長て患ものも。幼弱小く病  
ものよりも危険おと多か。是を避さるもまゝ愈む。己小異邦  
小種痘さる。他の痘を患もの、膿若く痂を取て。いま病さ  
る兒の肌膚小貼て。たやく痘を發しむる法ありて聽り。予か今  
お、小避べ死術を語ら。平常をいふ小あらむと知べし。さて  
瘡瘡鄰側小流行さる。小兒微も熱あらむ。その序熱の序熱小あ  
らざるは死考さるべし。此時風邪を相混して別るは死ものあ



色ニども。仔細ニ小觀カれを差異シかた小あらざ。險痘スナら序熱グより最其カ用意ヨウあるものなほ。輕忽ニル小思カふとなく。予の述クさるる小心シを潜コく會得エあるべし。

痘瘡ハツの序熱グを風寒ヒキ邪熱カ小類似ニく。辯別ソふとたかおと一といへども。意ココを加カく熱察ヨクをさバ自明オあり。その熱初チ往來ハありく。漸小シ甚シありく。更小サ歇クふとなく。熱來カら貪眠チ。睡裏チ驚悸キ。或シは搐搦ビク。心下シ輕按クても苦慙ク情狀キありく。氣喘キ。淚ナを流ナ。眼傍メをべて腫ハるる。さかもへる、もの。及腰脚ウ沈重シ狀ありく。行步ヤ整シむ。甚シは脚軟ケて立タふと能スざるもの。おほら皆序熱ミの候トを知ルべし。このうち小搐搦ビク驚悸キとるる。痘瘡ハツをら杯ハと。小兒熱チあるとた小多オあるふとあ

是コハ。おれをる里リ小くを決定ケしたく。諸證カを參互カく後辨ノ知ルべし。鑿イも蒼卒サ小看過ミもの多オけさ。かゝる患狀レ々その母預カ記得ケて遺漏オをきやう小鑿イ小も告ツべし。搐搦ビク劇キけさへ。上吊直視シ。人事ジ不省セ小いたるものあり。朱措ウべららむ。痘瘡ハツをらバ必回復キべし。予の拊水術フを用フくいつも驗シを得ル。この時小灸キをさるふと先マを禁ムべきことあり。偶灸オ小宜ヨものあさども。病家小との差別シハ爲ルたげさむ。さべくせぬふよし。まゝ序熱グの甚小ウ。衣服キを重襲オて暖ダ煖ナあるも後必害ノあり。まゝ清涼過サもあし。平常ヘよりも微温スをらん。さおもふ度をよしと必鬱蒸カしむべららむ。おと小頭巾グを着カふと。嚴冬フ凝寒ニの時節セありとも宜ヨららむ。必切禁キべし。痘を

頭面アタマノオモ小多發オホクハシバ一スヒ救スヒぶたき小いコイとるも十ジウ七八ハチ九ク頭巾ヅキンの害ガイあり。頭アタマを過アツリ小温暖アタタカをらスむるコト也ナリ。之コレ小由ヨリ氣衝キセウ上ウヘ迫ツマの勢イセを増マシく。七シチの重オモシものも兒コを害ガイ小いコイとる。輕カホキものもあアらラその宜ヨクシのコトらざるを見る。必カナラ頭面アタマノオモを覆オホふコト也ナリ。禁イムをスるコト。この巾子ツキン小コよりク世上セウジヤウの嬰兒コドモを亡シナシふと幾イタダク何ナニぞや。尤モトモト嘆ナゲクべシた弊習テキナマリあり。慈念ジニンあらん人ヒトら此ココ一ヒトキコをスだス小も勉ツトメく人ヒト小教諭コウジュて。其ソノ惡習アクシヤウを變カヘめル。大オホある陰イン障トクあるコト也ナリ。一ヒト已ヤメのコト也ナリ。首過ウヅマヒべシるコト也ナリ。已ヤメの子コを愛アイする念ネンより。他ヒトを利益リヤクするコトをスまスべシ。その餘慶ヨケイ已ヤメの子コ小及オホくス。自然ゼンと病患ヒヤウケンを免メふコト也ナリ。おまマ予ヨの衆人オウジン小望コウとスころあり。序ジ熱ネツの間ノ。最トクく頭部カニラを清涼セイリヤウく鬱蒸ムシレふコト也ナリ。腰脚ウシヤクをいハふコトも

温暖ウヅムカあるをよヨくス。脚タラシもシ冷ヒユるコトも。脚爐タラシ小コく温ヌルことハ決ケツて禁イムべシ。唯タリ至熱湯シツネツユ小鹽シホ少許シウコを和脚ワカクとスくス。温ヌル後ノチ乾カハるコト手テ中ナカを以モくス。拭ヌグてス後ノチ衣衾イセンを纏マツ裹マツて暖ヌルからスむコト也ナリ。冷ヒユハ再マタ三サンかクのボとクをスべシ。乾菜カンサイ煎アヒふコト也ナリ。忍冬ニンジュウを湯ユ煎アヒて。膝ヒザより下内外カネウチノウチ踝足カネアシ心ココロまスるコト也ナリ。温ヌルとスるコト也ナリ。益マシよし。胡菜コサイ煎アヒふコト也ナリ。煎アヒふコト也ナリ。鹽包シホホを煎アヒふコト也ナリ。湯ユも可ヨシ。痘兒トウジを居室オウシキを宏ヒロ濶ヒロクとスるコト也ナリ。良ヨシとス。尊トクを室シブキの中央マンナカ小安コトクく。前後ゼンゴ左右サウヤウ人ヒトの往來コウライ自在ジザイとスるコト也ナリ。室裡シブキノウチ小人居コトクノヒト居スべシ。兩三輩ニサンニニを限カキリとスべシ。小室コザシキをスらス人ヒトの少シウを欲ヨク。一家イツカ小數子ニサンニ痘瘡トウサウを患ヤミ時トキ同室ドウシキ小居コトクむスるコト也ナリ。甚禁シツケン煩痘ハントウも變ヘントスて危ケン險ケン小コかクもスむスことナリ也ナリ。必別ヒツベツ

小居オラしむべし。もヒホクニ卑賤ヒホクニ小く別室ベツマをきものキツキス。嚴醋キツキス二合ニカウを器カタ小盛イシく席間ヤシウチ小安オクる。又スミビく熾炭スミビを醋中スノチ小投イシてをりく室内ヤシウチを薰フスベさて板障アマド亮シヤウジ障ヒラキを關ヒラキてその鬱氣コモリガキを排洩モラシてよし。空濶ヒロキサキありとも火爐ヒバチ多安オクべのらむ。をアサササべく温涼アサササ平常ヘイゼイ小異オチなきをよしとむ。痘兒ハクサウコを久抱ヒシクイカキ及マミ懐マミ小入イサく寢イサしむるも好コマンのらむ。かるべきさけ下小卧チカしたるレさよし。食膳シヨウモツ下飯サイシ汁シレあるもの。飯イシまハ粥カユの類ルキ小くも。あるべきたけ暖ヌグかるものを用イ登シ。鐵子テツシを喫クハしめんレより。醴酒テイサウまレさ葛湯カクユ。大麥ダイマク霜糖湯シヤウドウかレとを用イのさよし。泥滯ナニシやレ乾質ケンシツの兒コらレ赤セキらレの類ルキも消息ヨシヤあるべし。渴カキあるもの。白湯サキを多用オホクたる。さよし。好茶ヨウチャを喫クハしむるトと最トクよし。序熱ジヤクより上品ジヤクの茗飲チヤとり

く契クハく益多エキオホシ。最善眠サイゼンミもの小多オホク氣烈キリキものを多濃煎オホクニクセン。藥小換ヤクオカヘて喫クハしめんレ殊効シツキウあり。渴カキあき小もとレりく湯茶ユチャと與オホてよし。尤モト一次小多服オホクしむべのらむ。大渴オホクて生果シヤクを好コマンバ。香椽クワン蜜柑ミカン。梨子リシ葡萄ブドウの類ルキ少オホづ、與オホても決カチしレ害ガイあるもの小あらば。たレ消化コナレおレじもレのを禁イムべし。魚肉イサハ羹汁ニシルを良ヨシとむ。雞卵ケイランも豆油汁トウアブ小く煮ニたるをレ用イべし。湯煮ユヂたるも泥滯ツツカエやレと。たレ魚肉イサも少オホづ、をりく喫クハしめんレめたるがよし。必過カナラヌ可カらば。序熱ジヤクよレ收靨カセ小いたるまで食禁シヤクの意得イデ小異カヒあると知シルべし。大便オウダン下利ゲリこと。見點ミテンの後ノチも宜ヨシのらむ。まレ秘結ヒケツをるかレも好コマンのらむ。序熱ジヤクの中ノチ尤大便オウダンの通トとなレ嫌キラフもレ大小秘結オホクヒケツをるかレとあらば。輕下劑ケイゲツを用イべし。過泄オホクシしむ

危カウシヤのらどトヒカ高手イシヤあるトヒカ醫トヒカ小トヒカ諸トヒカべし。衣服キルモノも日ヒおと小トヒカ改トヒカをよしとど。  
 被ヨキフ褥フシも日ヒ々トビ新ヨコレ汚ヨコレ穢ヨコレを死シ毛モの小コをベ。緊ハダギ身ミも最トツクいトツクさ、トツクものも  
 垢ヨコレ汚ヨコレるトツク臭クサミ氣キあるも用ヨクべヨクのらど。枕マクラともをりく更トツクべし。窮ビシボフニ乏トツクを  
 王ナレエとも為ナレエ得ナレエたナレエ死シ毛モのトツクあトツクらトツクばトツク懈オツタリ怠オツタリくトツク忽ユルカセ棄ユルカセ小コをトツク止トツクべ。毒ドク氣キ内ナイ  
 攻コウの基モトとあるトツク大トツクとなり。初シ中チウ後ゴこの用ヨク意イ肝カン要ヤウあり。志チあるを近チカ  
 頃ゴロ痘トウ疹シ科カと稱トナフるトツク醫イ派ハあり。さあトツクらトツクぬトツク説トツクをいトツクひトツクふトツクらトツクし。痘トウ兒ジの  
 卧マ内ナイも塵チリつトツクもるとも掃サウ除ジをトツクべトツクのらど。衣服キルモノ被ヤ褥ダも更トツクべトツクのらど  
 と病ヤ家カ小コ教キョウるものあり。大トツクあるトツク謬マヤマリ妄マヤマリ小コく。痘トウ兒ジ小コ巨キョウ害ガイある  
 大トツクとら。首ウデ卷マキ着キ病ヤ意イ得トツクの條トツク小コ述ジぶとくかトツク止トツクを。參カン閱ゲツくその非ヒと  
 了リヤウ解ゲべトツク死シ毛モとなり。まトツク痘トウ瘡サウ中チュウ母ボもトツクくも乳ニ母ボの攝セツ養ヤウの。前マエの

○痘瘡の序熱シヨネツ小コ掃サウ搦ダク上ウヘ不フ省シヨウ入ニ車クルマ小コいトツクるトツクのトツク小コ拊フ水スイ術ジュツのトツク一トツク法トツクを  
 施セふトツクるトツク冷レイ水スイをトツク手テ中チュウ小コ浸シメて。兒コの頭カウ上ウヘをトツク頻ヒシ小コ灌カン洗セン。面オモ部ベともトツクあトツクらトツクひトツクとの  
 水ミヅや、ぬヌるトツクむトツクと死シ毛モの再マタ冷レイもの小コ換カくトツク灌カンことトツク八九チウ十ジウ遍ベンお  
 いたり。頭カウ面オモの肌イダ膚ハダ冷レイて氷ヒョウのトツクとくトツクあるトツク小コ至シてトツク止トツクを。醒サメ  
 覺サトとトツク遅オソもの。冷レイ水スイ一トツク盞サンをトツク内ナイ服フクせトツクめて治トツクるトツクことあり。  
 〇トツクも見ミるトツクのらひトツクのトツクあトツクること也。史シ記キ大ダイ倉ソウ公コウ傳デン云ク  
 苗ヒナ川カハ王オウ病ヤ臣シ意イ診シ脈マク曰イハク蹶ケツ上ウヘ爲トツク重ジュウ頭カウ痛イタ身ミ  
 熱ネツ使シ入ニ煩ワン慙セン。臣シ意イ即トツク以トツク寒カン水スイ拊フ其コノ頭カウ刺シ足ソク  
 陽ヤウ明メイ脈マク左サ右ウ各オノ所トコロ病ヤ旋セン已ニ病ヤ得トツク之トツク沐ボク髮ハツ未マデ  
 乾カン而ニ臥オシ診シ如ニ前マエ所トコロ以トツク蹶ケツ頭カウ熱ネツ至シ肩カウとあり。  
 拊フ水スイの名ナ及トツク術ジュツ益イキ此コノ採サイ也。痘トウ瘡サウ序シヨ熱ネツ  
 卒ソツ厥ケツをトツク發ハツするものトツクのトツク術ジュツをトツク活カク用ヨウす  
 其コノ急キウをトツク救クウ且トツク起キ脹チウ灌カン膿ノウの期キ小コ至シくトツク巨キョウ利リを  
 得トツクことあり。予ヨ多タ發ハツ明メイ多タ年ネン經キョウ驗ケンの事コト小  
 〇トツク其コノ必カナラ効キウあるトツクものトツクをトツク認トツクてトツク施セ行コウことトツク世セ人ニもトツクや、知  
 ものトツクもトツク止トツクむもの守コ抗コウ刺シ舟フネ之トツク醫イをトツクは、首ウデ背セせトツクこと  
 ことあり。俗ソク家カハ唯タダ其コノ効キウあるトツクをトツク信シトて用ヨクをす。



痘の先顔上小發見もの序熱の頃より其兒喜眠やもととハ描搦を發一内攻一易ことあるハ毒の頭面小上道こと多かれハあり而眉の間の上下小多發するハ下咽喉と相應しく聲必くやく暖或ハ咳嗽さるハ發見鼻頭小多見ハ下腸胃小配を故小起脹灌膿の時小至く下利を促易も一過く抵破もはる其部分の應むるころ小の變を見はる常小多驗知ころあり按むるハ靈樞五色篇云庭者首面也闕上者咽喉也闕中者肺也下

極者心也直下者肝也肝左者膽也下者脾也方上者胃也中央者大腸也扶大腸者腎也當腎者臍也面王以上者小腸也面王以下者膀胱子處也顛者肩也顛後者臂也臂下者手也目内眥者膈乳也扶膈而上者背也循牙車以下者股也中央者膝也膝以下者脛也當脛以下者足也巨分者股裏也巨屈者膝裏也手當明部分ハ三ことと觀相家小傳ハ面部を周身小配當病處黒痣を知べき術の類小して相家小ハ而眉と手と一法令と足と或ハ準頭を背部小配と等の説やこと異ことありと雖全醫家四診中の望の其一小具念れもの古昔の遺法今五行家の書小存するもの小して古今二千年來知人のみればいと疎漏ありこの事此配當小其證ありて的實小今ハ施用さるる發明の説ありとも俗家の預るる記載ハ此小ハ唯との畧圖を舉て首護の一助小供まらる



條小説する代ゆめく忘失おとかく意を注ぐ慎持べし。痘の吉凶々序熱と見點の中小ありく起脹灌漿の善惡ハ六の裏小預定ことおれば。最保護の喫緊とをるおとなす。まゝ序熱より温暖から一むべきと。清凉から一むべたこの區別あせごも。とせらのおとち辯析さるく。假令説得たるも容易領會さしけせら。そのおとハ省ぬか不婆心意得させたさハ。痘瘡を患ることさも。その貴賤の級小よりく差あるおとち。越前小く乞食の兒の瘡瘡を患たり一語を。看病意得の條小載するおとれを相照て。とべての病者との慣来する平常と懸絶おれをよ一とをるおと。こ。こ。第一の意得と知べし。

見<sup>テ</sup>點<sup>ト</sup>也。熱<sup>ヲ</sup>あ<sup>リ</sup>て<sup>ク</sup>より五日<sup>ノ</sup>め<sup>ノ</sup>朝<sup>ニ</sup>痘<sup>ヲ</sup>見<sup>ル</sup>もの<sup>ヲ</sup>を順<sup>ニ</sup>痘<sup>ト</sup>と<sup>ス</sup>也。六<sup>日</sup>也。四<sup>日</sup>の夜<sup>中</sup>小<sup>出</sup>さ<sup>る</sup>る<sup>也</sup>也。序<sup>ノ</sup>熱<sup>中</sup>と<sup>ス</sup>三日<sup>ニ</sup>こ<sup>し</sup>く。四<sup>日</sup>の夜<sup>中</sup>に<sup>テ</sup>見<sup>ル</sup>點<sup>ト</sup>と<sup>ス</sup>定<sup>ム</sup>る<sup>也</sup>也。六<sup>日</sup>也。より<sup>遅</sup>る<sup>苦</sup>ら<sup>む</sup>也。然<sup>レ</sup>ど<sup>モ</sup>發<sup>ル</sup>と<sup>ス</sup>遲<sup>ク</sup>く<sup>宜</sup>ら<sup>ぬ</sup>痘<sup>ヲ</sup>あ<sup>れ</sup>ば<sup>必</sup>よ<sup>し</sup>と<sup>い</sup>ひ<sup>お</sup>こ<sup>し</sup>。熱<sup>ア</sup>る<sup>や</sup>い<sup>か</sup>や<sup>直</sup>小<sup>痘</sup>の<sup>見</sup>也。尤<sup>モ</sup>險<sup>惡</sup>と<sup>知</sup>べ<sup>し</sup>。ま<sup>づ</sup>頰<sup>ト</sup>と<sup>口</sup>邊<sup>ニ</sup>小<sup>見</sup>て。後<sup>ニ</sup>小<sup>額</sup>及<sup>準</sup>頭<sup>小</sup>發<sup>ル</sup>順<sup>小</sup>く<sup>吉</sup>と<sup>ス</sup>也。額<sup>準</sup>頭<sup>小</sup>より<sup>先</sup>小<sup>出</sup>く<sup>後</sup>小<sup>頰</sup>小<sup>見</sup>ハ<sup>逆</sup>あり<sup>と</sup>也。六<sup>日</sup>の<sup>面</sup>上<sup>小</sup>痘<sup>ノ</sup>發<sup>見</sup>部<sup>分</sup>を<sup>以</sup>て<sup>逆</sup>吉<sup>凶</sup>を<sup>判</sup>斷<sup>ス</sup>と<sup>ス</sup>也。確<sup>乎</sup>ある<sup>道</sup>理<sup>ア</sup>れ<sup>ど</sup>も。古<sup>人</sup>の<sup>論</sup>ト<sup>及</sup>も<sup>の</sup>も<sup>な</sup>け<sup>し</sup>也。其<sup>何</sup>の<sup>故</sup>ある<sup>六</sup>と<sup>次</sup>知<sup>人</sup>も<sup>ま</sup>と<sup>希</sup>あり<sup>も</sup>と<sup>より</sup>俗<sup>家</sup>小<sup>告</sup>論<sup>ん</sup>も<sup>益</sup>なき<sup>こ</sup>と<sup>也</sup>也。發<sup>明</sup>の<sup>説</sup>ある<sup>も</sup>此<sup>小</sup>と<sup>い</sup>は<sup>ぶ</sup>ま<sup>と</sup>

予<sup>ノ</sup>歷<sup>見</sup>と<sup>あ</sup>ろ<sup>く</sup>も。假<sup>令</sup>面<sup>部</sup>稠<sup>密</sup>あり<sup>と</sup>也。頭<sup>上</sup>髮<sup>中</sup>小<sup>痘</sup>の<sup>多</sup>出<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>善<sup>の</sup>ら<sup>ぬ</sup>證<sup>小</sup>く<sup>ま</sup>。不<sup>慮</sup>の<sup>變</sup>小<sup>逢</sup>と<sup>あり</sup>也。必<sup>輕</sup>視<sup>と</sup>べ<sup>ら</sup>む。六<sup>日</sup>の<sup>證</sup>と<sup>序</sup>熱<sup>中</sup>頭<sup>巾</sup>を<sup>着</sup>て<sup>頭</sup>を<sup>冒</sup>も<sup>の</sup>小<sup>多</sup>し。恐<sup>べ</sup>し。頭<sup>髮</sup>ある<sup>兒</sup>と<sup>ら</sup>。六<sup>日</sup>也。を<sup>痘</sup>熱<sup>あり</sup>と<sup>正</sup>小<sup>知</sup>べ<sup>し</sup>。髮<sup>を</sup>の<sup>こ</sup>り<sup>あ</sup>く<sup>剃</sup>た<sup>る</sup>も<sup>よ</sup>し。毒<sup>深</sup>も<sup>の</sup>小<sup>く</sup>頭<sup>熱</sup>と<sup>也</sup>也。多<sup>ハ</sup>危<sup>險</sup>小<sup>か</sup>も<sup>む</sup>く<sup>み</sup>と<sup>多</sup>け<sup>し</sup>也<sup>なり</sup>也。但<sup>し</sup>剃<sup>た</sup>る<sup>あ</sup>と<sup>へ</sup>も。油<sup>酒</sup>や<sup>う</sup>の<sup>も</sup>の<sup>代</sup>搽<sup>單</sup>の<sup>巾</sup>を<sup>用</sup>て<sup>霎</sup>時<sup>冒</sup>さ<sup>る</sup>も<sup>よ</sup>し。む<sup>さ</sup>し<sup>く</sup>畏<sup>れ</sup>か<sup>く</sup>も<sup>宜</sup>ら<sup>ぬ</sup>風<sup>を</sup>く<sup>寒</sup>ら<sup>ぬ</sup>時<sup>小</sup>か<sup>く</sup>も<sup>及</sup>ぬ<sup>也</sup>也。と<sup>思</sup>べ<sup>し</sup>。見<sup>點</sup>後<sup>ハ</sup>。天<sup>氣</sup>沖<sup>和</sup>小<sup>く</sup>風<sup>を</sup>く<sup>ら</sup>む<sup>也</sup>也。と<sup>ま</sup>く<sup>抱</sup>て<sup>門</sup>巷<sup>又</sup>も<sup>苑</sup>中<sup>を</sup>緩<sup>歩</sup>べ<sup>し</sup>。室<sup>奥</sup>の<sup>こ</sup>に<sup>在</sup>る<sup>氣</sup>の<sup>鬱</sup>滯<sup>也</sup>を<sup>恐</sup>

へる。起脹ミツクミ。灌膿ミシグ。收靨ハコビ同意あり。

起脹三日の中ち。漿水シラカを輸ツツクて粒々分明アザヤカ小紅暈多チヨウウカガとよしとを。此紅暈チヨウウカガハ紅絲アカキイトを以て痘ハヤクミの根を纏マヒするおととよしとを。締シメをくたつたつとよしとよし赤アカさとのまのらど。咬牙ハラクムあるも灌膿小カンウミ至て變ヒクあるなり。虚里ヒククシの動悸ドウキ甚ハジキる尤モトモ恐オソべは惡症アクレキ小死オシ小瀕オシムキやとく。決ケツしく怒視ユダシならぬおと也。善痘ヨキハヤクミと起脹ミツクミあるを小疾膿ハヤクミを醸カモして。灌膿カンウミの日ヒに至イバ收靨ハコビ小おもむくものあり。かゝる等ナニハ藥を用ヨクむ。自然シゼン小任マカセてよし。痘多ハヤクミ出イるもの。涙出ナミダく開ヒぶとらる。先マ乳チを點シぶ。若カらくあり手帕端テヌグモノを熱湯アツクユ小浸ヒタシ拭シくむらるべし。毒ドクの眼メ小入イたるをそのまゝ、かたぐ明メを失シたるものおとへる

里。舌シタ小く舐シてむらるるおとをもつともよし。毛モ小シて舐シんテおおもひ。よく漱クガイ口クして後ノチ小をべし。眼中メノナカ赤脈アカミありく色イロありく見えまじ黒睛クロクシ瞳子ヒトメ小翳クモホシありとを。むやくその設テ為アテををべし。輕視ユダシあるべのらど。鼻中ハナノナカ痘多ハヤクミ發イたるも。金銀花キニギハナを煎センて撒チ綿絲モンシ小浸ヒタし。鼻中ハナノナカ疥ヒタをりく掃除サツジをべし。ごとも口クチ小く吸ヒ出イする尤モトモよし。鼻渣ハナクワあらら湯ユ小くごとくと止めしと空耳ソノミ小くおとすをを。そのまゝ、小かくさきら。鼻塞ハナノサガリて息イキの往來カヨヒ障サマ鼻溤ハナシヅク咽ノド小流ナガ溜イリく。嘔逆ムカヒケを發モトメ害ガイとあるおとあり。故ユ小小兒啼拒チキコバを強シヒく速ハヤク車クルマと濟オコシべし。愛著アイヂヤクしく爲得ナレエどへ却カハく後ノチの害ガイと爲ナルべけと。よくくみ、ろうべたこと小おと。

灌膿定期三日のあひど。膿色いゝ小も濃。白うち小黄を間光澤あり。圓滿充實て痛あるもの尤善。この時小いたりて。紅暈まをく締あり。痘根をさりとくと鮮明小纏絡する。小とくみあるものより。紅暈散漫たるもあし。たゞ赤見あるものを吉ぞと意得。急卒小周章あり。起脹中小も。大の紅暈締ありといふうち小も。たゞ直紅小根も。とむり志のと志まじくみゆるをまづ佳といひ。灌膿小ありて。紅菌絲やうのもの小く緊くより。とけたるやう小きりくと締糸ならぬあり。小の差別をよく領會べし。癢あるもよそし。起脹のあらばより膿色を現さる。灌膿小恬視をべからど。其白さ瑪瑙のおとさる。小

色膿たる小もあらど。志あるを庸醫の誤認て。小は膿よりといふを信。俚諺小所謂足下のら鳥のたつやうある急變小逢て。卒小狼狽あり。かゝる證々。其痘粒圓滿やうあるも。心を留よく熟着。皺あま。空虚あるものなり。故小不慮の變と。おもふも遺失あり。見點の初より逆その吉凶の知る。小とあり。又灌膿小微熱の發ことあり。苦らど。大小發熱煩懣あり。下利あるも凶と。雖元氣自然の運用により。下利を促し。毒を腸胃より除去て。それより。順快小おもむく。小とあさ。下途小もいひ。たたく。餘症を參互て善惡決定べし。内攻とること。小寒戰咬牙て。胸腹小動悸甚あり。下利ものあり。下利のあきも



あま、に至るも能食ものも十小八九を治べし。穀氣をたも  
のち救ふたし。初より食の進ものも起脹灌膿滞るく。たごへ一  
二の佳らぬ症あまごも難治小あらむ。良痘を痛こと常をま  
ごも。稀小を瘡あまても險惡らぬものあり。さるいへど痒の  
儘く吉らぬ證なれば輕視をあらび。小兒を痒をも多へ痛を  
いひて分たれたとあま。故小旁小あるもの心を用て熟察を  
べし。起脹灌膿の中小小便小血を泄れとあり。こも尤難治あり  
と雖。あままと一偏小を定るとたことあり。衄血の苦うらび。そ  
こも過多へ速小止杯をあらぬものもあり。黒血を吐ものも駭  
るらび。鮮血の恐べし。古人痘色の灰白を寒と一紫黒を熱と

とまごも。寒熱を以て別る。治療の上小於く害あるものとあり。故  
小痘色の白を見く。虚寒とのこ思ふ。鑿士をあらべ。療治を委のこ  
し。かくいふら大小深意の存こと小く。俗家小を論のこくまご  
明められたることあり。さく順痘の發出多といへども。速小灌膿  
にありて。第三日小のをで小收醫小か、るものあり。  
收醫三日の間へ。既小滞るく灌膿を經らる。食の多少と二便の  
通利小意を注の外何の鑿術もあし。險症の膿成ざるもの。收醫  
の日小いよりて死ぬるものとあり。故小險證へ定期を過よりと  
も降心を登ららび。輕をのちこの時既小落痂もあま。然ごも先  
へ落痂のこた小あまご。壯實孩兒を少輕下劑を投く。腸胃中の

汚穢を掃除サウジしよ。收醫以前より腹中小蛇蟲を生むるもの  
あり。注意コノコトべし。もと蛇蟲ありと知シラば速スミカ小蛇蟲を下スさし。灌膿間  
も此蟲あきなり。意表の障サハリあるとあり。落痂以後は淡薄食品  
を撰用エラヒべし。一切過食しむべからば。勞怯カラダツカレく食味の失ナキものるを  
よく魚肉鰻鱺雞卵ウナギタマゴなど此些ココレづ、與タマセてよし。喫過クヒスしるる大小あ  
り。飲啖進シヨクシムもの小膏梁一切無用ムヨウあり。米粥も粘稠ネバリを湯ユ小あらひ  
く喫クハ志むべし。碎麥ヒキワリあともよし。酸澁スケ并アマケ臍シをカるサら禁イムべし。  
俗家小酒湯サユといふと然シ古来より是を忌コシむ。瘡發多小早浴ハヤクニオホキ  
をカるサらあり。大氏痂落タイテイフタオチつた後ノチをよしとす。輕痘カロキモノを志シらば。  
世小底利耶加テリヤカといふ藥を痘瘡ハウサウ小必用ゼヒモチツルものとをカるサら大なる誤アヤ

小く。大の物瘡瘡小於てさら小其益あるを見ぞ。大とよ善眠も  
のよも尤大害あり。多服志むをオホクノマとす。ため痘兒を害コロス  
とあり。決カタし用ヨウべからば。  
う小こころる。犀角サイカクあとなシヤリ服ノクしむるもあり。其他牡鶴ソノホカの燒ヤキたる。  
鹽藏鶴肉シホクツクフルノニクがよび燒ヤキたるものなどを服ノクしむること尤宜モツキヨシらば。  
臍帶ホヅツ亂髮カミケ爪ツメなどの燒存性シヨウセイも大小あり。大さらの物モノいづれも瘡ハツ  
瘡サマ効あるものにあらば。小兒の狭小腸胃セマキハラウチあ小衆多アヒタの藥劑クスリと  
受容ウケイル小堪タエんや。いたばら小苦懣クルシを増マスことを思オモざるの甚ヘタレれ。とす  
醫俗イセキヤクの通患アヒキヤクあり。  
序熱チありやいヒちや。額ヒタより準頭ハナハシラへ臍脂シニを貼タルものあり。かくとれ

とそこの邊へ痘疹出ると少といひ習せごも。この臙脂を貼る  
小。眼小を見えぬ。痘疹もとくく皮下小出齊あるあり。ま  
臙脂小か、る効あるおとも絶るなきをい何事とや。依據も  
なれ弊習小く。おの臙脂をぬりたるとおろる。痘色辨知のた  
く。鑿の診候を誤ことあり。必無益のことなり。又てりやのを  
ぬるおと尤あり。

痘兒を平常より厚被ふささるる害をさとし。初中後とも決  
くおるるまどおとあり。寒月小くもをりく空の色を見  
せおめてよし。風なきおら門巷へ出たるも苦おらば。た寒  
風。および器皿の冷たるもの。着病人の手足の冷する。衣服被窩

の冷たるを禁べし。痘兒も寒氣小觸冒くよし。變證出ると  
速懐小抱て厚被ふ。温熱物を喫しめて微汗を取べし。然され  
を内攻するあり。も乳を與もその意得小く。身を暖小  
温物を喫てよし。

日輝燥烈とさろ小痘兒を安しむ。窓のらば。聞室の大おあり。  
渴あるものにも下利を恐て飲漿を禁ものあり。以の外の意得  
たおひなす。渴あるもの小のをりく。飲液を用とよしとさるお  
と。初小いふごとくなす。

過く酸味の品と。至鹹もの。極て甘物との禁べし。  
乳酒を用べしといふ人あり。證小よりて喫しめくよきもあり

ごも。先へ禁たるをよし。兒の近旁小侍をも飲ぬをよし。も  
兒小酒を喫むべし。乳酒も限るらば。  
菜を食むるを宜とるものあり。多へ停滞て化さぬもの  
小くかゝつて害あり。禁たるをよし。  
虎子を枕邊小かくはよろらば。便下せしをりく。小必掃除  
しく臭氣あらむらば。  
月經の婦人先々用捨あるべし。止ことを得ざる衣服禪までも  
を更く更く抱持をべし。  
痘兒看護の人ち。とべく衣服の穢垢たる。臭氣あるものを着  
のらむ。清潔あるをよしとむ。

癆瘵鼓脹の病あるもの。かよびをまらの病者を看護したる輩。  
傷寒熱病を患。愈て後いまだ浴せざるもの。かよびをまらの病  
あるものを保護したる。その衣服をも更しく。痘兒小近よる  
危らば。  
母かよび乳媪微恙あるも。其乳を痘兒小喫むるをよと用捨  
あるべし。ほしく重病小か。まらざるもの。兒の近旁小侍も  
も禁をたごあるを。病小由り乳質あしくなること小害  
を注ぎ。與て止まごあけまらたごへ輕易痘疹をまごも大小害  
ごあるものあり。嘗て一婦人癆瘵の漸あり。小其子痘疹を患  
し。予其乳を喫むるをいと切禁まごも不肯して與

小面部メンブ纒ミダ小十餘顆バカリ小過スキざざカロキヤウ輕痘カサキの忽タチ小内陷ナイコウくレニ斃シさりリ一  
を見たミたり是コレ尤モトモ記得コトあるコト處トありとあり。

常小口臭シネクサキものカラダ身體小惡臭アレキニホヒあるものソバ旁小居オルべらばオモシ瘡ハツを發ハツ一  
たるもの尤モトモ宜ヨシあらば。

搔爬カキヤルことを禁イムむ皆人の知チこホろカり。こホを禦ムカんとく袖狭襦ソバセキヒユ  
袷アサを着キ一むるも好コトしラば意ココロを注ツケて着護マモリくよシ。強シビく流俗セケン小  
隨ツレんとチノキモあらば常服ジョウボクの袖ソデへ單ヒトヘの布ヌを補添メヒソヘく袖ソデを長ナしたるホトと  
尤モトモ便利タヨリなり。

下小卧フサしメたるマあるハあシ或アルヒち卧フサしメ或アルヒち抱イタキて專兒モウコの  
意ココロを轉アせしむるヨし。

痘瘡中兒ハツサウチウをシく多言タヒゴンあらシむカらばたコをシりく意ココロ小適話コト  
をシるコト慰ナゲべし。

或痘瘡神ハツサウカミの有アル無ナシを質ツツものコトあり。予答コタヘく言イハク神ありカミとホもふ人ヒトと  
必カナラ有アリとホろカり。正タシカ小有アリとホるものコト。清潔キヨク祭祀マツリく朝夕アサユフ小  
禮拜ライハイ一尊崇タツトムべし。決ケツしテく惑マドフとあるコト處トらばもシまシ無ナシとい  
ふ人ヒトら。必カナラ定ビツありと決ケツむカらば有アリといふも理リなき小コトあらむ。無ナシと  
決ケツむるもコトまシ理リあり。有アル無ナシと疑惑ウタガハシをシはシ可ヨクあらば。た  
と一方小定サケムべし。有アリと思人オモヒの心ココロよシる。痘疹ハツサウの見點ミテより收靨カセ小  
至イタルまでも。其日期ツクヒあるを初ハジメとホく。小とくコト不思議フシギをシらシるコト  
あり。神カミありとホるコトと更オモシ小疑ウタガハシべし。小あらむ。又無ナシといふ人ヒトの

卷三  
四十一

心小といづくよの神あるを。痘瘡も一神あらば麻疹小もは  
と神あるべし。もし然らば癩瘡肥前瘡小もまた神あるべし。其他  
傷寒、瘧疾、癘瘡、癩疾、癩病、百態千状の病一とて不思議を  
らざるをなし。痘瘡のこいごの別小神あらんや。か、とて痘  
神の有無をその人小よる小と小して。いつ迄に定たまこも深  
害あること小あらば。予を預ざるごころなり。

予幼く麻疹を患や、其苦惱甚かりしを記のこ小て。治術の  
小とも思ものけむ。近年又天下一般小麻疹流行し。江戸地方  
小もまた一とた。以前のおとく炎熱の候小あらざる故の  
さしたる險證もなく。一人も此病小く死する或聽ば。因り藥せ

むして愈もの多ければ。其治法を委せむといへども。従前の麻  
疹の治術用藥の小と小於ち。少疑をた小と能ば。さきとも險重  
の症小對く。的確なる實驗を経たる小とある小あらば。今此  
編小を説べき小ともなし。また水痘の小とさ小いたりく。斷  
然たる一家の説あきこも。そとより輕易症小く。俗家小さ  
く示登さ小ともあらねば。小とまた別小いもむ。小の病々真痘  
と相混して。老醫もまた診あやまることあり。その痘瘡との異  
ら。面部の分派より。背腰小多発見く。食味もあまり變に熱あ  
ると一時小発見て。顆粒大小遲速あり。一齊小起脹せむ。こを  
以て辨別登し。且其患狀痘瘡と懸絶ありて。決して混同をべ

き小あらば。別小併症の悩れものあくら。多ハ藥せどよく治さ  
せられ。そ一惡寒あるものら微感冒かど伏發散をるやうあ  
る投劑小て。必出齊小あり。速に水漿を輸て不どなく收靨もの  
あり。その間小も二三顆まら大半膿を釀ものもほりたる小  
とあり。その膿そのあるを見く。遽小痘瘡からんのと誤認こと  
あるれ。をりくかゝる證を看みとあさば。の秘く記得をるせ  
みとなり。

病家須知卷之三終

